

第6学年 国語科学習指導案

2組 計29人 (男子10人, 女子19人)

指導者 橋口 盛文

1 単元 「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」

(教材「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」 - インターネットと学習 光村6年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、教材「生き物はつながりの中に」で、筆者の考えを読み取るために、問題提起文と対応する答えの文を探したり、段落ごとに要点をまとめ、小見出しをつけ文章構成図をつくったりする学習をしてきている。また、筆者の考えに対する自分の考えを文章にまとめるために、文末表現や接続語に着目し、題名の意味を考えながら筆者の主張をとらえたり、要点や文章構成図をもとに文章を要約したりする方法を身に付けてきている。

そこで、本単元はこれまでの学習を生かしながら、書かれている内容について事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読むことをねらいとしている。また、自分の考えを他者へ情報発信し、交流するために、自分の考えを明確にして、必要な情報を収集・選択、整理したものをもとに、筋道立てた文章を書くことをねらいとして設定した。

教材「平和のとりでを築く」は、「話題提示 - 説明 - まとめ」の大きく3つのまとまりで構成されている。筆者自身が、語り手「わたし」として登場し、原爆ドームに対する思いを語り出すところから始まり、原子爆弾の投下により廃墟と化した建物が、多くの人々の平和を願う心から世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。この事実を基にした筆者の考えを読み取ることによって、多くの人々が「平和」を希求していることを理解することができる。

本単元で子どもたちは、事実と筆者の思いを区別し、文末表現の違いや重要語句に気を付けながら、文章に書かれたことを正確に読み取り、要旨を正しくとらえることで、筆者の読み手を引き寄せる文章構成の巧みに気付くことができる。そして、「平和」について自分の考えの根拠となる材料を収集・選択し、それを基に自分の考えを構成し、発信することで自分の考えを工夫して伝える態度を育てることができる。

ここでの学習は、中学校での読むこと「文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること」へと発展していく。

(2) 単元の目標

筆者の考えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとする。 【国語への関心・意欲・態度】

自分の考えを明確にして、書く材料を収集・選択したり、事実と意見を区別して書いたりすることができる。 【書く能力】

筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかを明確にしながらかく読むことができる。 【読む能力】

考えの中心となる文の置き方、意見と事実との書き分け方について理解することができる。 【言語についての知識・理解・技能】

(3) 子どもの実態

ア 教科全般にかかわる実態

本学級の子どもたちは、教材文を読んだり、自分の思いや考えをもち、積極的に友達と話し合ったりする活動が好きで、学習に対する興味・関心が高い。読書量が多いことや説明的文章の学習の仕方を生かし、長文でもすぐに要旨をとらえられる子どもたちもいる。また、全体的に図書やパソコンなどを活用し、事物について調べようとする情報収集の意欲は高いが、それを上手に活用したり、取捨選択したりする能力は十分ではない。多くの子どもたちが自分の考えや思いを書くことに興味を持っているものの、書くことへの抵抗や難しさを感じていることから、自分が書きたいことをなかなか構築できない子どもたちもいる。

イ 本単元の内容に関わる実態

<p>事実を基に意見文をまとめることができる。</p> <p>ア できる 22人 イ 十分にできない 7人</p>
<p>「原爆ドーム」の名称を知っているか。(写真提示から)</p> <p>ア 知っている(正確に) 29人 イ 知らない 0人</p>
<p>戦争からイメージすることは、どんなことか。(イメージした子どもが多かった順)</p> <p>死, 命, 爆弾(原子爆弾), 戦い, 血, 飛行機, 空襲, 防空壕, 争い, 涙, 殺し合い, 家族, 別れ</p> <p>悲しみ, 辛さ, 怒り, 恐怖, 見にくい, 怖い, やってはいけないこと, 不幸, 暗い, 絶望, 憎しみ, 無意味</p>
<p>知っている世界遺産を書きなさい。(知っている子どもが多かった順)</p> <p>屋久島, 白神山地, 原爆ドーム, 厳島神社, 万里の長城, 古都京都, 知床, 姫路城, 日光東照宮, 白川郷, マチュピチュ, ナスカの地上絵, 法隆寺, 自由の女神像, メンフィス</p>

前学年までに説明的文章の「学び」の方法を知っており、一人学びのできる子どもも多くいる。また、前単元での「学び」の「要旨を基に意見文をまとめること」もできるようになってきている。ただ、文章構成を正しくとらえられなかったり、これまでの書くことの経験が少ないために十分な意見文を書くことができなかつたりする子どもたちもいる。

「戦争」という言葉に対しては、これまでの学習や見聞きしたことから「死, 怖い, 悲しみ, 涙」など負のイメージを強くもっている。また、日本の関係する戦争や原子爆弾の投下された場所や日時については、ニュース番組や戦争を題材とした映画などをもとに、おおよその子どもたちが知っている。しかし、戦争の詳細や被爆など具体的事実についてはよく知らない子どもたちが多い。

世界遺産については、これまでの社会科や理科の単元で「環境問題」「自然保護」等について、関連した図書やインターネット情報を活用した調べ学習をしてきているため、名称はよく知っている。ただ、地図上での位置や具体的な内容、指定された背景などについては、詳しく知らない子どもたちもいる。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子ども一人一人の「学び」が生きるように、以下の点に留意して指導していく。

「つかむ」場面では、教材「生き物はつながりの中に」を説明的文章のプレ教材として取り扱い、要旨のまとめ方や文章構成のとらえ方、意見文の書き方について整理し、まとめたものを教室内に掲示する。そして、それを参考にすることで、いつでも本単元の学習に生かすことができるようにする。

「深める」場面では、戦争当時の歴史年表や原爆に関する資料を学習場面で提示することにより、本文に出てくる事物や事象を具体的にイメージしながら読み深めることができるようにする。原爆ドームが世界遺産に指定されるまでの過程やそれに対する筆者の思いをまとめることのできるワークシートを工夫し、常に筆者の述べたいことを意識しながら、自分の考えをもつことができるようにする。そして、一人学びで自信がもてない子どものために、互いの考えを交流する場を設定することで、つなぎ言葉や手がかりとなる言葉などに気付くことができるようにする。

「味わう・高める」場面では、前場面で子どもたちが要点をまとめたものや文章構成図などを基に、筆者の考えに対して自分なりの意見がもてるようにする。また、意見文がなかなか書けない子どもには、大事な言葉や文を書いたカードを提示したり、参考となる意見文を紹介したりする。

「まとめる・広げる」場面では、関連図書一覧やインターネットでの検索機能などを使うことで、平和に関する情報を集め、自分で設定したテーマ作文を書くことができるようにする。その際、教材文の文章構成やつなぎ言葉等を参考にさせたり、筆者の書き方の良さに気付かせたりしながら、自分の表現に生かすことができるようにする。この作文をインターネットで発信し、読んだ方からの感想をいただき平和に関する意見交流ができるようにする。

4 指導計画(全15時間)


は評価項目及び評価方法


過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	2	1 説明的文章の学習内容と学び方を想起する。	<p>プレ教材「生き物はつながりの中に」を通して、説明文の学習方法や学習内容を振り返り、本単元の学習に生かせるようにする。</p> <p>平和について関心をもって読んだり、話し合ったりしようとしているか。</p> <p>(発表・観察) 【国語への関心・意欲・態度】</p> <p>情報発信・意見交流を実施する活動を提案し、読みの目的がもてるようにする。</p>
		2 全文を読み、題名と段落から読みの課題をとらえる。 学習計画を立てる。 難語句の意味を調べる。 「わたしの考える平和のとりで」を情報発信しよう。	
深める	5	3 「原爆ドーム」がたどった歴史についてまとめる。 (1) ~ 段落 ・ 原爆ドームと広島市民 ・ 原爆の投下 ・ 原爆ドームの永久保存 (2) ~ 段落 ・ 世界遺産への道のり (3) ~ 段落 ・ 筆者の考え	<p>子ども一人一人の実態に応じたワークシートの工夫を図ることにより、原爆による被害の様子、人々の動きや変化を読み取ることができるようにする。</p> <p>歴史的事実に関する動画や画像、グラフなどの具体物を提示することで、時代や戦争の背景をとらえることができるようにする。</p> <p>少女の日記を紹介することで、原爆ドームが永久保存になったことをより具体的に感じ取ることができるようにする。</p> <p>文章を読み深めることを苦手としている子どもが、とりでをイメージしやすいように、絵や図に表現する活動を取り入れる。</p> <p>事実を確かめながら筆者の考えをまとめ、自分の考えを明確にしながらかくことができたか。</p> <p>(ワークシート・発表) 【読む能力】</p>
		4 筆者の伝えたいことに対する自分の考えをまとめ、交流する。	<p>参考教材「原爆の火」と読み比べることで、筆者の考えをより具体的にまとめることができるようにする。</p>
		5 自分の伝えたいテーマについて調べる。	<p>友達の意見文に対して、心を動かされた言葉や文、よりよい文にするための助言を互いに書いて交換することにより、たくさんの意見交流が図られるようにする。</p> <p>自分の考えを明確にして、書く材料を収集・選択したり、事実と意見を区別して書いたりすることができたか。(ワークシート)【書く能力】</p>
味高 わめ うる	4		
ま広 とげ める	4 (本 時 2 / 4)	6 「わたしの考える平和のとりで」と題し、平和に関するテーマ作文を書く。	<p>テーマ作文に仮の要旨を設定させる。また、事実と意見を色分けしたカードに書かせるように準備しておき、並べ替えの操作をすることで、簡単な文章構成図をつくることができるようにする。</p>
		7 テーマ作文を推敲する。(本時)	<p>推敲のポイントをおさえることで、伝えたいことを明確にしたテーマ作文を書くことができるようにする。</p>
		8 情報発信を行う。	<p>考えの中心となる文の置き方、意見と事実との書き分け方について理解することができる。</p> <p>(発表・ワークシート)【言語についての知識・理解・技能】</p>
		9 学習の振り返りをする。	


5 本 時 (1 3 / 1 5)

(1) 目 標 要旨を明確にしたテーマ作文になるように文章構成や文末表現，つなぎ言葉等の役割を考えながら推敲することができる。

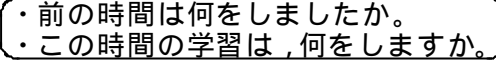
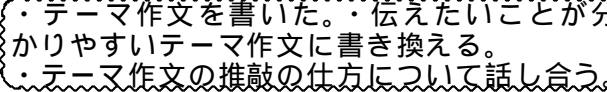
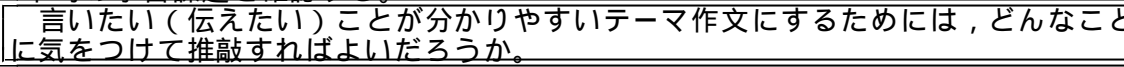
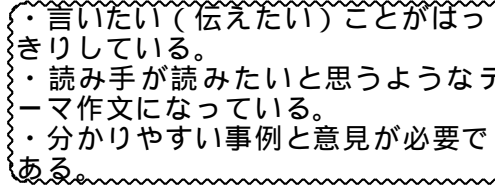
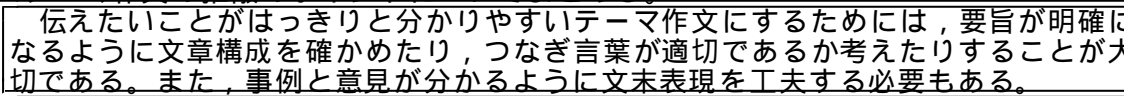
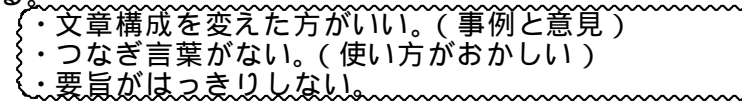
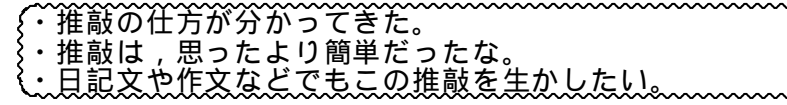
(2) 展 開

教師の言葉掛け 

予想される子どもの反応 

重点評価項目 

は個に応じた指導

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つかむ (5)	<p>1 学習計画をもとに，本時の学習内容を確認する。</p> <p> ・前の時間は何をしましたか。 ・この時間の学習は，何をしますか。</p> <p> ・テーマ作文を書いた。・伝えたいことが分かりやすいテーマ作文に書き換える。 ・テーマ作文の推敲の仕方について話し合う。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p> 言いたい（伝えたい）ことが分かりやすいテーマ作文にするためには，どんなことに気をつけて推敲すればよいだろうか。</p>	<p>前時の学習内容と学習計画とを確認することにより，本時の学習の見通しをもつことができるようにする。</p> <p>テーマ作文を書く目的と推敲の意味を明確にすることで，本時の学習のめあてを意識して学習できるようにする。</p>
深め (20)	<p>3 本時の学習の進め方を確認する。 推敲とは，どんなことが確かめる。 例文を推敲する。 推敲の仕方について，班で話し合い，みんなでまとめる。 自分のテーマ作文を推敲する。</p> <p> ・言いたい（伝えたい）ことがはっきりしている。 ・読み手が読みたいと思うようなテーマ作文になっている。 ・分かりやすい事例と意見が必要である。</p> <p>4 ワークシートに例示されたテーマ作文を自分で推敲する。 ・気になる言葉や文，文章にサイドラインを引く。 ・文（文章）を書き直す。・言葉や文を補ったり，削除したりする。</p> <p>5 推敲したことについて話し合う。（話し合いのポイント） ・気になる言葉，文について ・要旨 ・文章構成 ・つなぎ言葉 ・文末表現</p> <p>6 テーマ作文の推敲のポイントについてまとめる。</p> <p> 伝えたいことがはっきりと分かりやすいテーマ作文にするためには，要旨が明確になるように文章構成を確かめたり，つなぎ言葉が適切であるか考えたりすることが大切である。また，事例と意見が分かるように文末表現を工夫する必要もある。</p>	<p>教材文の構成やテーマ作文を書く準備を振り返ることで，推敲のポイントに気付かせ，本時の学習の解決の糸口を見いだせるようにする。</p> <p>教材文の構成図や要旨，読みの手掛かりとなる言葉，つなぎ言葉，文末表現等を教室内に提示することにより，一人学びの手掛かりとなるようにする。</p> <p>要旨を明確にしたテーマ作文になるように文章構成や文末表現，つなぎ言葉等の役割を考えながら推敲することができたか。 （ワークシート・発表）【書くこと】 ワークシートに推敲ができない子どもこれまでの学びを振り返らせると共に，具体的に推敲の仕方を示したワークシートを準備し，一人学びができるようにする。</p>
高味め わらう (13)	<p>7 自分のテーマ作文を推敲する。 ・推敲の手順を確かめる。 ・実際に推敲する。 ・推敲の実際を紹介する。</p> <p> ・文章構成を変えた方がいい。（事例と意見） ・つなぎ言葉がない。（使い方がおかしい） ・要旨がはっきりしない。</p>	<p>例文の推敲や友だちの考えや意見を構造的に板書し，自分のテーマ作文の推敲に生かすことができるようにする。また，友だちの推敲の方法や内容をもとに，再度自分の推敲に活用できるようにする。</p>
まとめ (7)	<p>8 本時の学習を振り返る。 ・自己評価する。 ・意見交換する。</p> <p> ・推敲の仕方が分かってきた。 ・推敲は，思ったより簡単だったな。 ・日記文や作文などでもこの推敲を生かしたい。</p> <p>9 次時の学習を確認する。</p>	<p>評価カードに本時の学習の振り返らせ，本時後の学習や他の教科学習，日常の作文活動等につなぐことができるようにする。</p>